

これまでと

これから

胡桃澤 克成 (高39回)

昨年役職定年を迎えて職場のOB会に入会。入会の挨拶にはこんなことを書いた。

・現役時代は主に融資審査・管理を担当し、不良債権問題や新規制導入の時期で面白い体験ができた。

・高知・広島でも勤務し、それぞれの風土・人柄・酒と魚に親しむことで視野が広がった。

・今後は、新しくサステナビリティを担当。仕事以外の



ジャズのライブハウス前で

活動は、①ジャズ等のライブハウス
通い②肉牛・桃などの專業農家で村
会議員だった父の
日記を読む③『世
界史との対話』(小
川幸司著)を入り



●くるみざわ・かつなり
農林中央金庫勤務。昨年、役職定年で職員から嘱託員に身分が変わり、気候変動・生物多様性・循環経済などサステナブルを担当。趣味はジャズミュージシャンの菊地成孔の追っかけ。

口にした脳内時間旅行 ④難民支援のボランティア活動を継続予定。

このうち④の難民支援ボランティアについてつぶやいてみたい。

難民への日本語学習支援と就学支援

「日本語ができるようになったら何をしますか？」

「母国ではエンジニアだったので、日本で自分の能力を生かせる仕事をしたいです」

「こどもの学校のお知らせを読み、病院で体調を伝えるようになりました。そして日本人の友達を増やしたいです」

これは、日本語学習講座に応募してきた難民の方たちとの面接の様子。私は認定NPO法人Living in Peaceという団体で、日本に逃れてきた難民の困りごとを減ら

すボランティア活動をしている。

生活のために働かなければならない難民の方は、留学生のように日中に学校に通うことができないので、日本語学校にオンラインで夜に授業するコースを作ってもらった。また、外国人労働者の多い愛知県で、移民のことも向けに「にわとり式漢字カード」という画期的な教材を開発している元小学校の先生に協力してもらい、大人向けの授業も始めている。日本語は漢字とかなが混じり、漢字には音と訓という違う読み方がある面倒な言葉だ。難民のような制約の多い人たちが向けに工夫したサービスを開発することで学習メニューが増えれば、難民に限らず日本語を学ぶ人たちが全体にメリットがある。

日本語学習支援のほか、世界で2番目に難民の多いシリアからの留学生の就職支援にも参加。「母国ではエレベーター等の機械向けソフトウェア開発をしてきました。日本の大学院を卒業したら物流機械を開発している大学発ベンチャーに就職したい」という話を聞き、大学や企業で鍛えた技術力とビジネスレベルの英語力を持っているうえに、隣国への避難生活中も周囲の支援活動をしてきたタフな人と知る。こうした有能な人材を人手不足の日本企業につなげれば、本人・企業両方にメリットがあると感じた。「これまでのキャリアで培ってきた自

分の強みや、希望する企業で実現したいことをしっかりとアピールしよう」とアドバイス。

オンラインで数回面談した後、プログラムを主催する団体の懇親会で、結婚するために最近シリアから日本にきた奥様と一緒に対面。新婚で幸せそうな二人を見て、よい職場が見つかってほしいと願った。

日本の少子高齢化を考えれば、ご縁があつて日本にきた難民が活躍できる社会を作ること、企業や社会全体にも大きなメリットがある。難民を積極的に採用する企業を増やすために、外国籍人材が活躍できる職場作りに積極的な企業を褒めたたえる仕組みも準備している。

戦争・人権侵害等で故郷を追われた人は約1億2000万を超えた。地球温暖化で海面上昇や異常気象が増えれば、生きのびるために移住する人はもっと増えそうだ。「自分たちとは違う人たち」に対する恐怖から、難民受け入れが厳しくなる国も多い。

しかし、日本人と韓国人がお互いに行き来することでずいぶん関係が変わったように、触れ合う機会が増えれば作り上げたイメージも変わるものだ。私の難民のイメージも「可哀想な人たち」から「逆境に耐える強さを持つていて日本で活躍できる人たち」に大きく変わっている。